

「かさじぞう基金」の支援が必要な相談事例（福岡事例）

2006年から、グリーンコープは多重債務や借金で苦しむ人たちが相談に来る生活再生相談室を開設し、家計相談と生活再生のための貸付事業に取り組んでいます。生活再生相談室には今日、明日の生活費がなく途方に暮れ、切羽詰まって相談にお見えになる方もいます。

この「かさじぞう基金」は、ライフラインがすべて止まりそう、仕事に行くための交通費がない、子どものミルクやおむつが買えない・・・など緊急の場合には5千円から1万円の範囲で相談員が即決で生活資金をお貸しできるように2009年に創設しました。昨年1年間で、295人の相談者に2,607,667円を支援し、その内6割は返金いただきました。

「かさじぞう基金」は、組合員や生産者・業者の皆さんなど、趣旨に賛同いただいた方からのカンパで支えられています。新型コロナウイルス感染症が拡大する中、制度利用と合わせて「基金」の必要性が高まり現在カンパを呼びかけています。

下記は、新型コロナウイルス感染症に影響を受けた相談者へ「かさじぞう基金」の支援をした事例の一部です。5千円から1万円までのこの小さなお金の尊さを改めて噛みしめています。

1、北九州・筑豊生活再生相談室

○40代 女性 一人暮らし

新型コロナ感染の影響で就労更新の契約条件が悪くなり、転職。満額給与までの生活費が不足する。食糧支援と生活費不足を支援した。

○60代 男性 一人暮らし

年金と就労で生活してきた。新型コロナ感染の影響で自主的に仕事を休んだため、居場所がなくなり、転職した。年金が入るまで、仕事に行く交通費がなく、収入を得られなくなった。交通費の支援を行った。

○20代 男性 妻と二人暮らし

新型コロナ感染の影響で仕事が減り、収入減。社会福祉協議会に貸付の申請を予定しているが、仕事に行くための交通費がない。妻の給与が出るまでの交通費を支援した。

○80代 男性 一人暮らし

年金生活。年金のやりくりができず、携帯代、電気代を遅れながら支払っている。心臓が悪く、薬代が払えない、携帯代を支払わないと止ってしまうため、薬代と携帯代を支援した。

○40代 男性 一人暮らし

9月から正社員となったが、家計管理ができず、月末給与までの交通費と家賃が不足する。交通費と家賃の不足分を支援した。

○40代 女性 子ども4人 母子家庭

解雇され、再就職したが、再就職手当金の給付手続きが遅れたため、仕事に行く交通費がなく、このままでは収入を得られなくなるため、交通費を支援した。

- 40代 女性 子ども2人 母子家庭
障害年金で生活。就労できず、年金までの生活費がない。年金までの生活費を支援した。
- 70代 女性 一人暮らし
年金と車で新聞集金業のアルバイトで生活してきた。滞納していたガス代を支払ったら、就労のためのガソリン代が不足し、年金までのガソリン代を支援した。
- 20代 男性 車中泊
運転手として転職したばかりで、初回給与が少なく、満額給与までの生活費が不足する。就労継続のため、ガソリン代を支援した。
- 20代 男性 パートナー女性と二人暮らし
初回給与までの生活費が不足したため、社会福祉協議会への申請を検討したが、書類が揃わずに断念。生活費不足を支援した。
- 20代 男性 一人暮らし
障害年金と就労で生活。隣家に住んでいる母親が経済的DVになり、支援してきた。母親の精神状態がよくないため、予約日の受診が必要だが、全額は支援出来ない。受診費用の一部を支援した。

2、福岡生活再生相談室

- 40代 女性 一人暮らし
看護師として病院に勤務していたが、コロナの感染を恐れた家族や知人から辞めることを勧められ退職。その後就職活動をし、大型トラックの運転手として就職が決まった。給料が出るまで収入がないため、電気代、携帯電話料金の滞納が発生。奨学金返済ができず、生活費も不足しているため緊急小口資金10万円の貸付の手続きをした。送金日まで手持ちの現金がガソリン代の一部程度しかなく、ガソリン代と、大型トラックの車中で食べるものを購入できるよう支援した。長距離を移動するため、移動中に食べられるものを中心に食糧支援も行った。

3、筑豊家計改善支援事業

- 30代 女性、子ども1人（小学3年生） 母子家庭
夫のDVから逃れて、転居してきた。給料日まで手持ち現金が僅かしかなく、水光熱費の支払いができない。携帯料金の支払いもできず、携帯が止められてしまうため支援した。
- 40代 男性 パートナー40代女性と2人暮らし
パートナーが体調不良（診断の結果、子宮体癌）で、緊急入院をしなくてはならない。病院に行く為のガソリン代や交通費を支援。
- 30代 男性 パートナー女性と本人の子ども2人（長女小学1年生、次女保育園年長）
コロナの影響でなかなか仕事が見つからず収入がない。妻が妊娠しており妊婦健診に行きたいがお金がなく、受診料などを支援。
- 40代 男性、一人暮らし
カラオケ機材の営業職だが、コロナの影響で仕事が激減し収入がほとんどない。社協の緊急小口資金や住居確保給付金の申請をしたが、手持ち現金が僅かしかなく、それまでの生

活費が不足するため支援。

○60代 男性 一人暮らし

就職活動をしたいが、コロナの影響でなかなか仕事が見つからない。ハローワークに行くための交通費すらないため、交通費ほかを支援。

○50代 男性 離婚した妻40代と同居

元妻は、住宅ローンの支払いの負担が大きく、これ以上迷惑をかけられない。手持ち現金が僅かしかなく、就職活動の為に必要な医師の診断書や役場の書類を取ることができないため諸経費を支援。

4、久留米市家計改善支援事業

○50代 男性 パートナー女性と二人暮らし

ネパールからの留学生で3月に大学を卒業。4月から正社員で仕事が決まっていたが、コロナの影響で2月に申請したビザの結果がでない。そのため、就労ができず収入がないため、家賃、携帯電話等の滞納が発生。携帯電話が止まると内定が決まっている仕事先との連絡が取れないため、携帯電話料金を支援した。

○30代 男性 母親との二人暮らし

無職で就職活動中だったが、コロナの影響で就職活動ができなくなった。収入は母の年金しかなく、電気代、家賃滞納があり携帯電話は止まっている。ライフラインが止まらないように電気代を支援した。

5、嘉穂田川困りごと相談室（子ども支援オフィス事例）

○40代 女性 子ども5人の7人世帯。

内縁の夫が本人の給料と預貯金を持って行方不明となり、子どもたちがまともに食事をとれていない状況にあった。

まだ寒い季節の中、灯油を購入できない状況で、家族は布団をかぶり寒さを凌いでいる状態。下の子は1歳に満たず、このままでは命の危険も感じた。

母親は妊娠中。未受診のため周期は不明だが、およそ中期に差し迫ったところ。不正出血がみられ、病院受診が必要だが、病院の費用が工面でいない。

食糧支援とかさじぞう基金で、子どもたちの食事やオムツ、また灯油代を工面することができた。また病院も無事に受診することができた。関係機関との連携を通して、家族の安全を確保することができた。

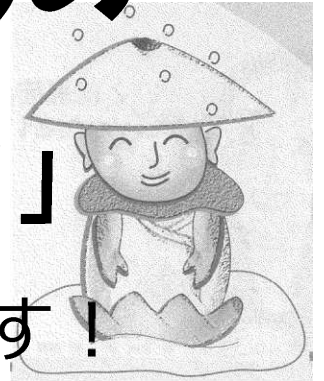
○30代 男性 妻、子ども2人の4人世帯

仕事が解雇となり、妻のパート就労と公的給付を受け生計を維持するが、光熱費の支払いが滞るようになり、電気に至っては一週間以内に止められるおそれがある。

夫は仕事が決まるが、次の収入が入るまでガソリンが底をつく状況にあり、仕事に向かうことが困難となるおそれがある。

かさじぞう基金で、電気代の支払いを行い、ライフラインを確保することができた。ガソリン代も工面でき、無事に仕事に向かうことができた。今は家計も安定し、安心した生活を送ることができている。

いのちをつなぐための 「かさじぞう基金」



カンパにご協力お願いします！

これまでの暮らしを一変させた新型コロナウイルスの感染拡大。生活再生相談室、生活困窮者支援の窓口には、これまでの3～4倍の人たちが相談に訪れています。「ライフラインがすべて止まりそう」「おなかがすいても食べるものがない」など深刻な相談が今後ますます増えていきます。生活が破綻してお金が手元にない方への緊急の生活資金として、今日食べることにも困っている方や子どもたちへの食料支援として、いのちをつなぐための「かさじぞう基金」カンパにご協力お願いします。

いのちをつなぐための「かさじぞう基金」カンパ

申込番号： 9182 1口200円

9185 1口500円

注文書の4桁番号記入欄に4ケタの申込番号と数量欄に申込口数をそれぞれ記入してください。1口200円と500円で何口でも申し込めます。

16号、17号でお申込みください。

いのちをつなぐための「かさじぞう基金」カンパは、生活再生支援事業が責任を持って取りまとめ、生活困窮者支援、子ども支援に役立てていきます。

○1万円の範囲内で、緊急に生活資金が必要な方の支援に使います。生活が立ち直った時には、生活資金としてお渡ししたお金は「かさじぞう基金」に戻してもらい、つぎの困った方への支援として利用できるようにしていきます。

○協同地域事業本部と相談しながら食料支援に利用していきます。

「かさじぞう基金」のこれまでの活用例を紹介します。

○ **40代女性の一人暮らし**

新型コロナの影響で仕事の契約条件が悪くなり転職したが、満額給与までの生活費が不足して、食料と生活費を支援する。

○ **60代男性の一人暮らし**

年金と就労で生活してきた。新型コロナ感染の影響で自主的に仕事を休んだため、居場所がなくなり、転職した。年金が入るまで、仕事に行く交通費がなく、収入を得られなくなる。交通費を支援する。

○ **80代男性の一人暮らし**

年金生活。年金のやりくりができず、携帯代、電気代を遅れながら支払っている。心臓が悪く、薬代が払えない、携帯代を支払わないと止ってしまうため、薬代と携帯代を支援する。

○ **40代女性で子ども4人の母子家庭**

解雇され、再就職したが、再就職手当金の給付手続きが遅れたため、仕事に行く交通費がなく、このままでは収入を得られなくなるため、交通費を支援する。

○ **40代女性で子ども2人の母子家庭**

障害年金で生活。就労できず、年金までの生活費がない。年金までの生活費を支援する。

○ **70代女性の一人暮らし**

年金と車で新聞集金業のアルバイトで生活してきた。滞納していたガス代を支払い、就労のためのガソリン代がなく、年金までのガソリン代を支援する。

○ **50代男性でパートナー女性と二人暮らし**

ネパールからの留学生で3月に大学を卒業。4月から正社員で仕事が決まっていたが、コロナの影響で2月に申請したビザの結果がでない。そのため、就労ができず収入がないため、家賃、携帯電話等の滞納が発生。携帯電話が止まると内定が決まっている仕事先との連絡が取れないため、携帯電話料金を支援した。

○ **20代男性で車中泊**

運転手として転職したばかりで、初回給与が少なく、満額給与までの生活費が不足する。就労継続のため、ガソリン代を支援する。

